

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273500296		
法人名	株式会社白松		
事業所名	グループホーム白松		
所在地	千葉県八街市富山1345-16		
自己評価作成日	平成26年2月15日	評価結果市町村受理日	平成26年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaignkensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	日本化成販売株式会社		
所在地	東京都千代田区五番町2-14		
訪問調査日	平成26年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の有料老人ホーム白松の郷の助けがあり、環境面では桜並木の遊歩道や白松神社があり、散歩など危険もなく行くことができます。医療面でも白松の郷の看護師によるバックアップや訪問ドクターが週に一度来訪、また病院受診でも送迎の車があります。
グループホームでは、庭の畑で採れた野菜も含め、季節感あふれた野菜中心の食事をする事ができます。何より、職員があたたかく、家庭的な雰囲気の中で生活できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜並木や神社もある広大な敷地の中で、季節感溢れる遊歩道を散策するなど、利用者は自然に囲まれた環境で過ごしています。また、隣接する同一法人「有料老人ホーム白松の郷」が開催する行事に参加するだけでなく、健康管理や医療面でも連携が図られているので、利用者は、健康で安心した生活を送ることができます。利用者職員は、共に家事をしたり、雑談をしたり、家庭での生活のように終日和やかに過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示、理解の上、自立支援、尊厳のある生活への実践に向けて努力している。	理念や事業の目的にもある認知症高齢者に対して、自立・安心・尊厳を重視し「白松のサービス三原則」を始め「合言葉」を事業所内に掲示して、たえず確認をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧による地域の情報を得たり、行事に参加。2ヵ月毎に近所の美容師がカットに来てくれたり、米を地域の米屋で購入する等、交流を持つようになっている。また、文化展にみんなで作った作品を出品している。地区の、防災訓練に職員が参加。(今年度は、雪の為に中止)	町内会の行事への参加・文化祭への作品の出品展示等行っています。また、利用者アンケートに戸外での触れ合いを希望する声があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行ってはいないが、検討中。 運営推進会議の場において、事例を発表したり、質問があれば、答える等している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の代表の方、近所の方、地域包括支援センターの職員、家族や居住者が集まり、意見や感想を話し合ったことを、職員にも回覧し、意見の交換をすることにより、業務に活かす努力をしている。年度末までに、3回開催予定。	運営推進会議は昨年度1回、本年度は4/25・11/26・3/1と3回実施しています。その都度報告書も克明に記されており、出席者の意見も業務に活かすよう努めています。	運営推進会議は、基準省令85条に2ヵ月に1回以上実施の旨記されています。個別に出席者と議案を相談するなど、次年度はより多くの回数を行いサービスの向上に活かせるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族、居住者の方がより良く生活できるよう、必要に応じて相談している。また、家族に障害福祉課に勤務されている方がいて、情報提供してくれている。入居者の紹介をしてくれている。	利用者の家族の中に障害福祉課勤務の方がおり、必要に応じて相談する事ができます。また要望や希望があれば、市町村担当者と相談できるよう協力関係も築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生活の場が2階であるため、安全面を考え、出入口に施錠している。家族からの希望でもある。個人についても、やむをえず拘束しなければならない方については、家族に説明し、同意書をいただいている。また、早く拘束を外せるよう、毎月モニタリングと検討を行っている。社外、社内研修をすることで、職員の知識と意識の向上に努めている。	二階がホームの生活の場である為出入口の施錠は、関係者の了解を得ています。また、止むを得ず拘束する場合も、家族の了承を得る事はもちろん、担当職員の研修に、万全を期しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年長者であることを頭に入れ、声掛けをしている。入室の際は、声掛けをして了解を得る。(必要に応じて、内緒で居室チェックに入るときがある。)個人情報や机の引出しにて保管、重要書類は有料老人ホーム白松の郷で保管している。		

【グループホーム白松】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修、社外研修に参加し、知識を深めている。併設の有料老人ホーム白松の郷に利用されている方がいらっしゃるのので、相談することができる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書で十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に話を聞いたり、エレベーター前に意見箱を設置している。日常の面会時や、家族意見交換会等で、意見、要望を聞き、反映させている。半年毎に、意見要望を記入する用紙を送っている。	年1回の家族意見交換会で要望や意見を聴取し、運営面での改善を行っています。また、意見箱や電話での情報収集や、利用者家族に半年に一回、意見要望の記入用紙を郵送しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、スタッフ会議を開催。毎朝、ミーティングで話し合う機会を設けている。都度、上司に話を伝えるようにしている。 職員の声を業務改善委員会にあげている。	毎朝のミーティングは、活発な意見交換で組織内意見疎通の大事な場となっています。さらに、法人全体で行う業務改善委員会で、職員の声を反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	永年勤続表彰制度や資格手当あり。 年末年始の出勤者には手当あり。 交代で社外研修に参加し、スキルアップの場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社会福祉研修センターからの研修には、交代で受講。 有料老人ホーム白松の郷との合同研修には、交代で全員が参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議へ案内を出したが、都合がつかず参加していただけなかった。		

【グループホーム白松】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に家族から話を聞き、日常生活の中で本人から不安や要望等に耳を傾けている。気にかかることがあれば、その都度家族から話を聞き、本人によりそえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の生活の様子を手紙や電話で、また、面会時に報告しその都度要望や意向を聞くようにしている。毎月、日常生活や受診の報告を手紙にて行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	良く話を聞くとともに、日常生活の中で観察してきたことを職員間で話し合い、何を必要としているのか検討している。アセスメントや日常の会話の中で知りえた、趣味や好きなものを考慮し、一日も早くなじんでいけるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ家庭の中で生活しているように、職員と共に家事をしたり、雑談をしたり、テレビを見たり、一緒に同じ物を食べて生活している。楽しい事、不安な事も共感できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるかぎり、家族との一緒に時間を過ごしていただけるように声掛けをしている。 外出、外泊のお願いをしている。 何かあればすぐに連絡をとり、家族と一緒に支援をするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙の代筆や、電話で話してもらい、携帯電話を使用している方もいる。 職員同行での自宅への外出も検討しているが、本人拒否があり、実行できないでいる。	手紙の代筆や電話の取次等を通じて、馴染みの関係を大事にしています。また家に帰りたい、お墓参りに行きたい、いつものスーパーで買い物をしたい等の要望を受け、その実現に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居住者同士の関わりを大切にしながら、良好な関係を保てるよう見守り、必要時には声掛けし、関わるよう支援している。 家庭的な雰囲気の中、居住者同士、世話をやいたり、やかれたりの関係を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も、グループホームの新聞を送っている。 機会があれば、来訪していただいている。		

【グループホーム白松】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とゆっくりと話をする機会を持ち、本人が何を望み、どうありたいのか把握できるよう努めている。また、生活している中での1つ1つの言動から、本人がどのように生活をしたいのか汲み取るよう努めている。ときには、家族から話を聞くようにしている。帰宅願望の強いときは、散歩に連れ出すなど、個人対応している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握には、日常生活での言動だけではなく、居室に行き本人とゆっくり話をする機会をもつ等、利用者に合わせて行っています。また、把握が困難な場合には、家族や知人等から話を聞くように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や居宅ケアマネージャーから情報の提供を受けたり、本人の話の中から聞きとるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活の観察や感じとったことを生活記録、受診記録、申し送りノートに記入、会議や話し合いで情報の共有に努めている。 個々のその日の状態により、居室でゆっくりしたり、食堂で談話やテレビを楽しんでいただく等、好きに過ごしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成やモニタリングにおいて職員に意見を求め、参考にしている。また、家族には一年に一回、又、必要に応じ意見交換会を開き、半年に一回、意見要望を書いていただくよう、手紙を出している。報告や意見・要望を、取り入れている。	介護計画はアセスメントとモニタリングに本人、家族、職員の意見を確認して作成します。特に家族には、年1回の意見交換会や半年毎のケアプランを送付し、意見や要望を聞き、現状に即した介護計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルの生活記録や申し送りノートへ必要なことを記入し、職員で確認し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人にとって今何が必要なのか、何がいちばん大切なのかを常に考え、検討、実行するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の有料老人ホーム白松の郷の力に助けられている。その他に地区の行事に参加し、市の文化展に作品を出展している。ボランティア、ヘルパー実習の受入れ、小学生との交流社会を行っている。地区の方の訪問美容や、ピアノ演奏に来てくれている。		

【グループホーム白松】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、協力医療機関に変更される居住者が多く、有料老人ホーム白松の郷で毎週水曜日に診療を受けられる。(八街総合病院・内科) 毎週金曜日には訪問歯科、月・水・金はマッサージをしてもらっている。他の科については、八街総合病院へ有料老人ホームの車で送迎してもらえる。家族、本人の希望により、他院の受診もしている。	医療機関の受診については、利用者、家族の意向を尊重しています。週1回「有料老人ホーム白松の郷」で診療を受ける他、必要に応じて協力医療機関等へ車で送迎しています。また、週1回の訪問歯科や週3回のマッサージも行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態に変化があった場合、有料老人ホーム白松の郷のナースに連絡し、相談対応してもらっている。日に一度、居住者の様子を見に来てくれ、状態に変化があれば随時来てくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が時間のあるときは、交代で見舞いに行き、様子を見てくる。 有料老人ホーム白松の郷の医務室ヘルパーが、毎日様子を見に行き、病院のナースの話を伝えてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の作りが、健常な方向けにできていて難しい。風呂は、有料老人ホームの機械浴を利用させてもらっている。提携している特養もあるが、どうしたら良いのか家族と話し合い、有料老人ホーム白松の郷で見てもらいながら対応している居住者もいる。	利用者が安心して生活できるように、「有料老人ホーム白松の郷」も視野に入れながら対応しています。骨折などで一般浴ができないときには、白松の郷の機械浴を利用します。終末期の利用者については、家族等に説明し、関係職員と対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修でAEDの操作方法、救急時の心肺蘇生の訓練を行い、マニュアルを作成している。救急時の対応チャートを目に付く場所に貼り出している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月19日を防災の日と定め、コールの点検等、防災に努めている。 年2回、居住者・職員共に、避難訓練を行っている。社内研修で勉強。 地区の防災訓練に参加予定していたが、雪のため、中止。	毎月19日を「防災の日」と定め、消火器、コール、避難ばしご等の点検を行って意識を高めています。利用者と職員が一体となつて行う年2回の避難訓練や、業者による災害設備の点検を実施しています。地域ぐるみの防災訓練への参加も検討しています。	

【グループホーム白松】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者であることを頭に入れ、声掛けをしている。入室の際は、声掛けをして了解を得る。(必要に応じ、内緒で居室チェックに入るときがある。) 個人情報は机の引出しにて保管、重要書類は有料老人ホーム白松の郷で保管している。	入居の際に「契約書」に基づき、秘密保持について説明し、職員には、運営規定に明記し徹底を図っています。利用者の日常の写真が掲載される機関紙の送付も家族に限るなど、利用者のプライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからの働きかけがないと、何をしてもいいのかわからない方が多く、声掛けによりやる気を引き出すように努めている。強制することなく問いかけるようにし、また本人が意志決定しやすいよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調に合わせ、その日の気分を大切に、希望、要望に沿うよう支援している。寝たきりにならないように自立支援をふまえて、声掛けに工夫するよう心がけている。すぐに要望に応えられないときは、出来るだけ早い対応を心がけている。レクについても強制せず、個々で好きに過ごせるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の衣類の準備を職員と一緒にしながら、本人の好みの服を選んでいただいている。その日の服は、自分たちで選んで決めている。行事参加するときなどは、薄化粧や服装に気を配るよう支援している。2か月に1回、訪問美容でカットしてもらっている。また、希望があれば、本館の理美容を利用し、カットしている。毎日化粧をしている方もいて、きれいになりたいという気持ちを大切にしよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや、食器の片付け、テーブル拭きをみんなでやり、コロッケ、餃子、いなり寿司等は調理にも参加している。片付けのできない方の食器も協力して片付けてくれたり、助け合いの気持ちも見られている。職員と居住者とが、一緒に食事をしている。	食事については調理や準備など利用者の持てる力を活用し、お互いが協力しながら、職員も一緒に楽しい一時となるよう心がけています。利用者の意見も聞きながら、職員が持ち回りで作成した献立表の原案を全員で協議し、実施しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に水分、食事摂取量を記録している。個々の状態に合った食事の形態、固さを工夫している。本人の好みに合わせて、メニューを一部変える工夫などの支援をしている。		

【グループホーム白松】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに、一部介助や声掛け、見守りと職員が関わって本人の力に応じた支援をしている。義歯を使用している方は、職員管理の元、ポリドントを使用。異常時に訪問歯科で診てもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考に声掛けやトイレ誘導を行っている。失敗した場合の原因について検討し、次はどのようにしたら良いのかを職員で支援している。	日常の支援の中で把握しながら、自立して排せつができるよう促しています。パットもできる限り使用しない方向で検討しています。トイレに行きたいときは、職員は見守りながら動向を把握しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事や適度な水分摂取、散歩や運動を日常生活の中で取り入れるよう努めている。3日、排泄の確認ができないときは、併設の有料老人ホーム白松の郷のナースに相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に隔日で入浴している。(変更もあり)。時間帯については、基本午後と決まっているが、午前中に入浴する時もある。体調や本人の希望により中止することもある。介助の必要な方には手伝いを、そうでない方には見守りをし、好みの湯温で会話を楽しんだり歌ったりとしている。ここでの入浴が困難なときは、併設の有料老人ホーム白松の郷の機械浴で入浴している。	入浴は、基本的に隔日の午後に実施していますが、利用者の状況も勘案して柔軟に対応しています。好みの温度で介助をしたり、見守りをしながら支援しています。また、気の合う仲間と入るなどの工夫や配慮をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のリズムで休息したり、入眠している。部屋の照明や温度等、本人が安眠できるように支援している。 週1回シーツ交換をし、気持ち良く横になっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の経過記録と処方箋を確認し、服薬は職員が管理している。服薬が変わったときは、申し送りノートにて周知し、様子観察を行う。薬の説明書は保管し、薬事典はいつでも見られるように置いてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことを支援している。家事の好きな方は手伝いを、歌の好きな方は歌を、何かを作るのが好きな方は手工芸を、体を動かすことが好きな方は運動を、畑の好きな方は畑の手伝いをしている。個々で、好きなものを召し上がるときは、居室で職員見守りで召し上がっていただいている。		

【グループホーム白松】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や、併設の有料老人ホーム白松の郷の行事への参加、月1回のドライブ、地区の行事の参加。 外出、外泊等は家族の協力がある。	天気の良い日は、施設内の遊歩道や隣接の神社等を散策し気分転換を図っています。ドライブも月1回程度実施し、近くを見学したり、買い物や食事に出かけます、隣接した「有料老人ホーム白松の郷」で実施される各種行事に参加し、交流を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名、自分でお金を持っている。日常の金銭管理は併設の有料老人ホーム白松の事務所でやっている。有料老人ホーム白松の郷の売店へ日用品を買いに行くこともある。ドライブのときに、買物を楽しむ方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人へ電話がかかってきたときは、話をしている。 手紙のやりとりをしたり、書けない方には代筆をしている。年賀状を出した方がいる。 携帯電話を使用している方がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や温度に配慮し、居室前の飾りや廊下の飾りは、季節感のある物を手作りしていただき飾っている。 調理の音やにおいがあり、生活感を常に感じられる。	利用者は、花を飾ったり室内温度にも配慮した、清潔で明るい、食堂・居間(兼用)に集まりゆったりとした時間を過ごしています。玄関から廊下は、利用者の作品や日常の調理の音など、生活感や季節感が感じられるよう工夫が施されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と廊下にソファを置き、自由に座っていただいている。ソファの前の壁には、日常生活の写真が飾っており、会話が弾んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物を居室に置いている。壁には家族の写真、手作りのカレンダーを飾ったりと個人の居室としての雰囲気を出している。各居室前にのれんがかかっていて、プライベートとしての空間を作っている。	馴染みの家具や物を置くなど、住み慣れた家庭での生活の延長となるよう工夫しています。家族の写真、手作りのカレンダーを飾り、個人の居室としての雰囲気を作り出しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、便座は高さの違うものを設置。館内はバリアフリーでじゅうたん張り。各居室入口に個々違うのれんをかけ、自分の居室をわかりやすくしている。居室がわからなくなってしまう方のために、目印をつけたりする。 居室内は、職員見守りの元、自由に過ごされており、いる。		